

S-KYT研修を実施して

山口県山陽小野田市消防団

1. はじめに

山口県の南西部に位置する山陽小野田市は、人口が6万3千人、面積133.09km²で、本市北部の市境一帯は標高200～300m程度の中国山系の尾根が東西に走り、海岸線一体はほとんど干拓地となっています。この市街地を取り囲むように丘陵部の里山、河川、干拓地に広がる田園地帯、海などの身近な水辺空間に恵まれ、市内には、日本の夕日100選の焼野海岸、ランドマーク的存在の竜王山、四季折々の自然が楽しめる江汐公園などの豊かな自然、かつて大名行列も通った旧山陽道の町並みや厚狭毛利家墓地、寝太郎物語など歴史遺産、国重要文化財である「旧小野田セメント製造株式会社堅窯（徳利窯）」などの産業遺産など、固有の地域資源が数多く存在する歴史ある自然環境に包まれたまちです。

気候は、年間を通じて温暖で、降水量の少ない瀬戸内海式気候を示し、住みやすい生活環境となっています。また、市内中央には高速交通網、JR山陽新幹線や重要港湾のほか、隣接市には空港を有するなど、一次交通が発達し利便性が高く、産業立地にも好条件を備えています。



焼野海岸の夕日



徳利窯



竜王山桜

2. 消防団の概要

山陽小野田市消防団は、1団、3方面隊、1本部、13分団で構成され、平成30年8月現在で428名（女性消防団員27名、学生消防団員18名）の消防団員が所属し、消防ポンプ車13台及び団指揮広報車1台を配備しています。

災害の備えとして機械器具点検や訓練を定期的実施し、消防技術の練磨に努めています。また、防火・防災に関する普及啓発活動においては、70歳以上の一人世帯に対する住宅防火診断や年末特別警戒、自主防災組織等の地域住民と積極的に関わりを持ちながら地域防災力の強化に取り組むとともに、災害に強いまちづくりを推進しています。

3. S-KYT研修の開催経緯

本市消防団では、年間教育計画で例年行われ

ている新入団員や新任機関員を対象とした基礎教育、応急手当普及員の育成や長距離送水訓練などの応用教育、消防学校派遣の専科教育があります。しかし、幹部教育については、専科教育のみで限られた者しか受講できないため、S-KYT研修を幹部教育として位置づけ、消防団員等公務災害補償等共済基金から講師4名を派遣していただきS-KYT研修を実施しました。

4. S-KYT研修の様子

平成30年7月1日(日)、宇部・山陽小野田消防組合消防訓練研修センターにおいて、消防団長以下60名の消防団員(班長以上)が、4時間コースを実施しました。

はじめに、「S-KYT研修の概念と狙い」について講義を受け、続いて「実技1」では指差し呼称の重要性について説明がありました。その後、一人ひとりが確認行動の指差し呼称を行いました。恥ずかしさもあり大きな声で唱えることができませんでした。しかし、何度も繰り返すうちに指差し唱和では「山陽小野田市消防団 ゼロ災でいこう よし!」とはっきりと大きな声で唱えることができました。

タッチ・アンド・コールで各グループの一体感を高めた後にイラストを用いて「実技3、4」を実施しました。イラストに潜んでいる危険要因を見つける「現状把握」、その現状把握した危険のポイントを絞り込む「本質追求」、追及した危険要因に対する「対策樹立」、対策を絞り込み重点実施項目を設定する「目標設定」の4ラウンド法により話し合いを進めたところ「ワイワイガヤガヤ」、「どんどん」、「ぐんぐん」という感じで話し合いは盛り上がり、各チームの連帯感が高まっていることを実感しました。この話し合い

で重要になるのはリーダーの存在であり、そのリーダーを育てるにはS-KYT研修は幹部教育として非常に効果がありました。



5. S-KYT研修を終えて

終了式において消防団長から各分団長に対し、S-KYT研修で習得した知識を所属団員に伝えるとともに定期的にトレーニングを行うよう求めました。また、幹部団員から日頃の訓練や機械器具の点検時など継続的に実践できるため、班長以上ではなく多くの団員も受講すべきではないかという意見もありました。

結びになりましたが、このたびの研修開催にご協力いただきました講師の皆様、消防基金の方々に心より感謝申し上げます。

